ミセルバ

調査レポート

製造の委託先選定における
最新の意識動向調査

ArchiTech

Copyright © ArchiTech Inc. All Rights Reserved.

基本情報

調査概要

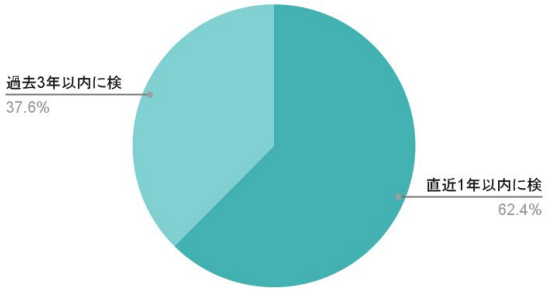
本レポートは、**「直近3年以内に、自社製品の製造委託を検討または実施したことある方」**に対して下記概要の ウェブアンケートを実施し、集計・分析したものになります。

※小数点第2位を四捨五入した結果を表示しています
※読みやすさを考慮して、元の意味を変えない範囲で編集している箇所があります

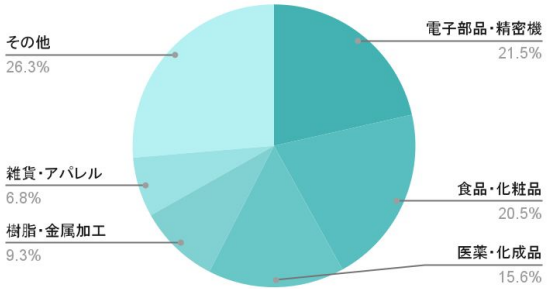
調査目的 ｜ バーチャル内覧が受託生産の営業活動に与える影響を調査
調査方法 ｜ 外部の調査媒体を利用し、アンケートを実施
調査期間 ｜ 2025年10月
調査項目 ｜ 全10問
回答者数 ｜ 205名

回答者属性

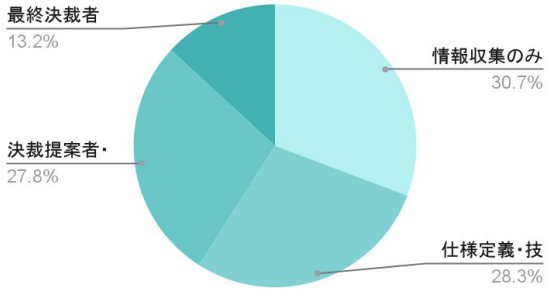
製造委託（OEM/ODM/EMS）を検討または実施時期



委託を検討した製品種別

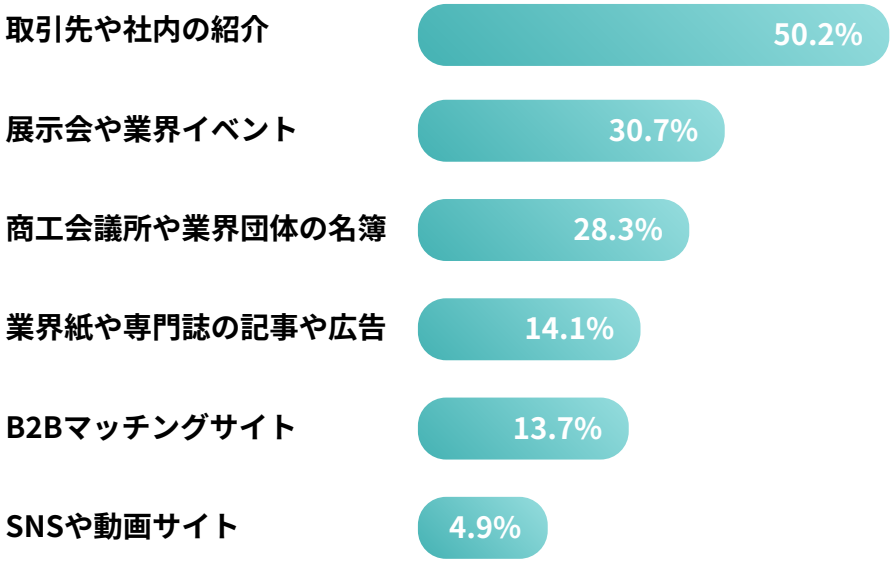


委託先選定時の関与度



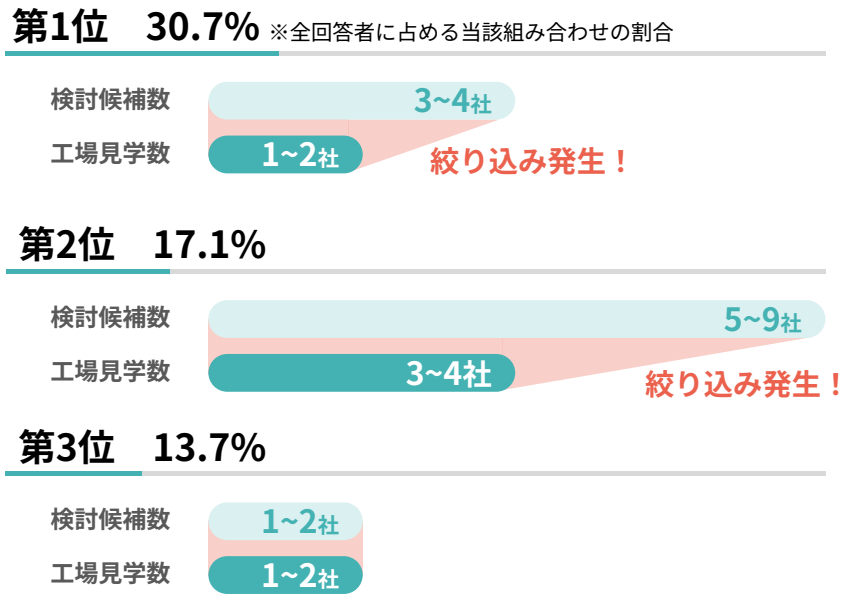
委託先選定における行動傾向

委託候補先の探索チャネル



検討候補数・工場見学数の組み合わせ構成比

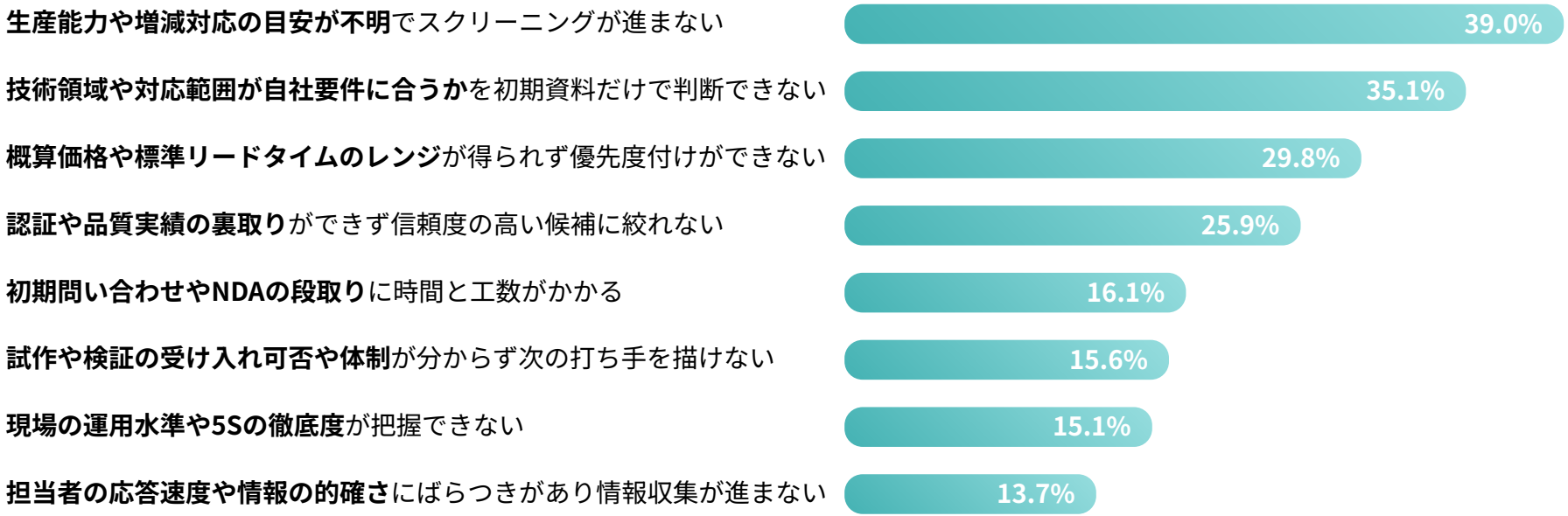
（上位3パターン）



委託候補の探索チャネルは取引先・社内紹介が50.2%と過半を占め、人的ネットワーク経由が主流だが、展示会や業界イベントも30.7%と外部からの情報収集も多い。検討候補数・工場見学実施数の調査では、**上位2パターンの組み合わせ(合計47.8%)において候補リストアップ→工場見学実施の過程で絞り込みが発生しており、複数候補の検討から少数への見学**という傾向が伺える。

委託先選定における行動傾向

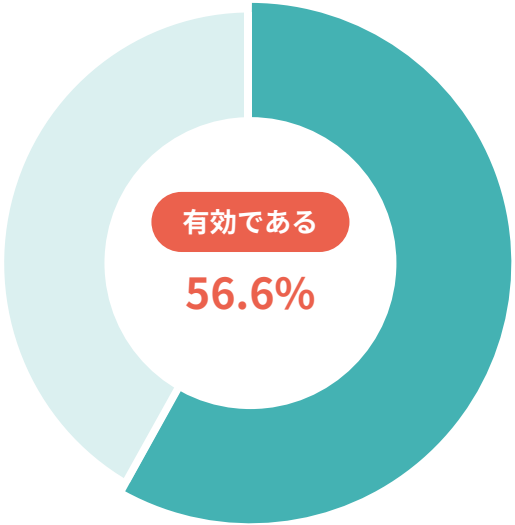
委託先候補の絞り込み時における課題



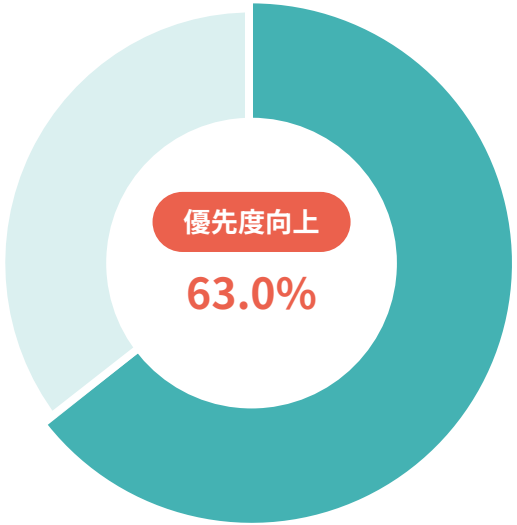
生産能力の目安不明が39.0%、技術領域の適合判定困難が35.1%と上位を占めている。概算価格・標準リードタイムのレンジ不明29.8%、認証・品質実績の裏取り困難25.9%なども含めると、**初期段階での情報不足が複数項目で指摘されており、絞り込みプロセスにおける判断材料の確保が課題**となっている。

バーチャル内覧による委託先選定意向の変化

委託先候補絞り込みにどの程度有効か？



委託先選定にどのような影響を与えるか？



バーチャル内覧は56.6%が候補絞り込みに有効と評価し、63.0%が工場の優先度を上げると回答。オンラインで現場実態を事前確認できる選択肢が加わることで、**見学前の情報収集手段が拡充され、候補の比較検討における判断材料の一つとして機能する**可能性が示されている。

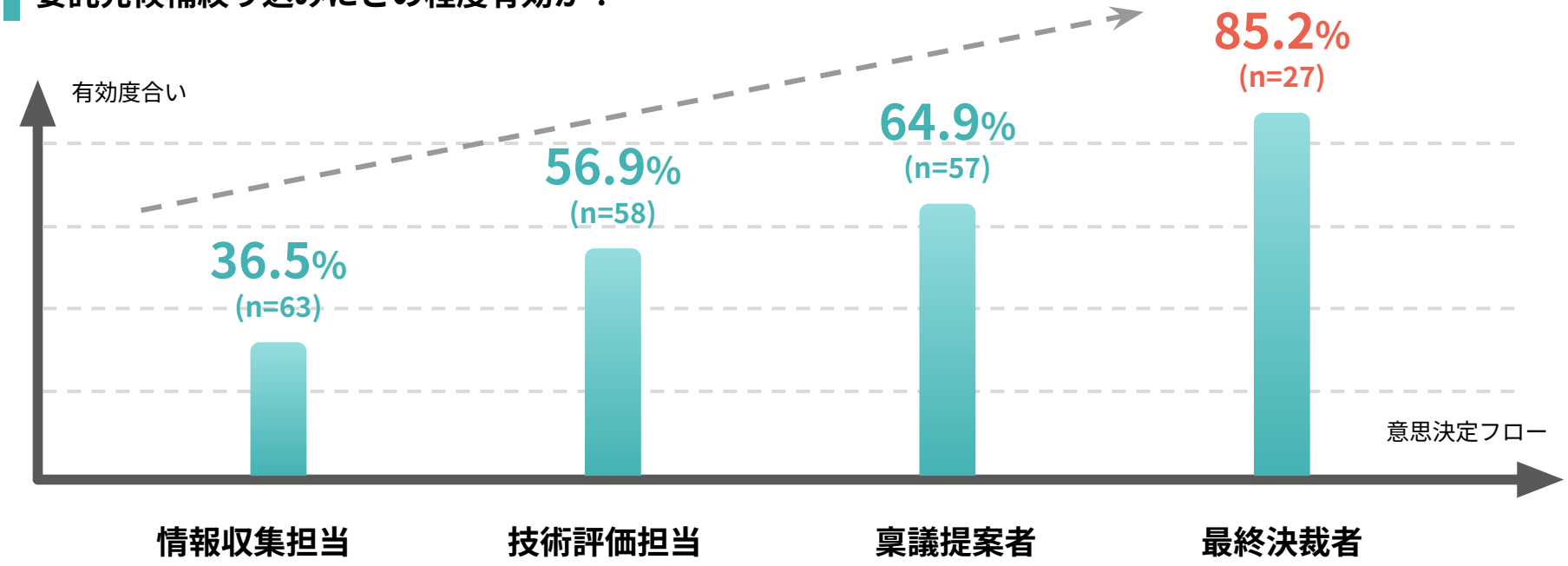
バーチャル内覧による委託先選定意向の変化

バーチャル内覧の期待効果

期待効果は、遠方候補の拡大39.5%、発注前リスク評価の精度向上35.1%、移動費・工数軽減31.7%が上位。地理的制約の緩和や事前の情報確認による見学要否の判断の早まり24.9%、社内合意形成と意思決定の早まり23.4%など、**選定プロセスの各段階での効率化が期待**されている。

【役割別】バーチャル内覧による委託先選定意向の変化

委託先候補絞り込みにどの程度有効か？



最終決裁者は85.2%と高い有効性評価を示し、決裁提案者64.9%、技術評価担当56.9%、情報収集担当36.5%と続く。**意思決定における役割が上位になるほど有効性の評価が高まる**傾向が見られ、全体像の把握や判断根拠の確保といったニーズが、役割に応じて異なることが示唆される。